

大阪の“サカ”は いつ “坂”から“阪”に変わったか

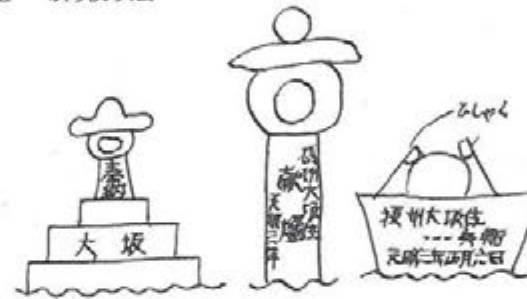
28期生

I テーマ設定の理由

昨年、これと同じテーマで自由研究をしたが行った神社、寺の数が少なく、結局結論が文献によってしまったので今年は文献に書いてある裏付け調査ということではなく、自分で研究をすすめていきたい、と思ったのが理由である。

ちなみに、昨年の設定の理由を書いておく。“大サカ”の阪の字がもともと坂と書かれていたことは、授業や色々な本（大関記など）によって知っていたが、いつごろそれが変化したかということは、はっきりわかっていないということを知って、「よし、やってみるぞ」と、思ったのが理由である。

II 研究方法



神社や寺にある燈ろうや、鳥居、石碑、水
ばち、奉納額などからオオサカの字を探し、
奉納者の住所があれば、“阪”か“坂”かを
調べ、これらの物が寄進された年代を見てま
とめていくのが研究方法である。

III 研究結果

(1) 实地調査を行った神社や寺（かっこ内は昨年のも）

生駒宝山寺・生国魂神社・高津宮・金台寺・心光寺・大江神社・天満宮・堀川神社
山阪神社・素盞鳴尊神社・庚申堂・一心寺・安居神社・野江神社・関目神社
大宮神社・石清水八幡宮・大鳥神社・方違神社・藤井寺・京都八坂神社
伏見稲荷・（住吉神社・春日大社）

实地調査でわかったことといえば“大サカ”の地名のでてくる燈ろうが、市内の神社・寺より地方の有名神社の方が多いということである。市内の小さな神社では、“当村”“千林”など地域的な地名や“氏子中”と書かれてあるものが圧倒的に多かった。

(2) 燈ろうなどに書いてある文字の例

〔。天保八年四月吉辰日 大阪米市場 大坂観音講 天明五巳乙年二月吉祥日
。大坂取次 安永貳癸己載 元治元年 大阪屋七兵衛

このうち、最後のもののように人の名前である場合はどうしようか迷ったが、名前（特に地名のついた商人）は、地名と密接につながっているとして資料に加えた。

(3) 結果

寛文	1661~1672	坂④	坂④	坂⑦																
延宝	1673~1680	坂⑤																		
天和	1681~1683	坂③	坂③																	
貞享	1684~1687																			
元禄	1688~1703	坂⑭	坂⑭	坂⑯																
宝永	1704~1710	坂⑰	坂⑱																	
正徳	1711~1715	坂②																		
享保	1716~1735	坂④	坂④	坂⑤	坂⑥	坂⑦	坂⑦	坂⑩	坂⑫	坂⑰	坂⑱									
元文	1736~1740	坂②	坂②	(坂②)	坂②	←注	文政2年に再興													
寛保	1741~1743																			
延享	1744~1747	坂③																		
寛延	1748~1750	坂③	坂③	坂③																
宝暦	1751~1763	坂⑤	坂⑦	坂⑨																
明和	1763~1772	坂⑦	坂⑨	坂⑨	坂⑨															
安永	1772~1780	坂②	坂②	坂③	坂③	坂④	坂⑤	坂⑥	坂⑥	坂⑩	坂⑫									
天明	1781~1788	坂③	阪③	坂⑤	坂⑤	(坂⑦)	←注	文政2年に再興												
寛政	1789~1800	坂③	坂⑤	坂⑨	坂⑩	坂⑪	阪⑬													
享和	1801~1803	阪②																		
文化	1804~1817	阪②	坂⑤	坂⑦																
文政	1818~1829	坂⑥	坂⑥	坂⑦	坂⑧	坂⑨														
天保	1830~1843	阪⑤	阪⑦	阪⑧	阪⑪	坂⑱	坂⑱													
弘化	1844~1847	阪②	坂④																	
嘉永	1848~1853	坂⑰	阪⑰	阪⑱	坂⑱															
安政	1854~1859	阪③	阪④	坂⑤	坂⑥	坂⑥	坂⑥	坂⑥	阪⑥	阪⑥	阪⑥									
万延	1860																			
文久	1861~1863	阪⑰	阪⑰																	
元治	1864	阪⑰	阪⑰	阪⑰	阪⑰															
慶応	1865~1867	坂②	坂②	阪③																
明治	1868~1911	阪は無数	坂⑦、坂⑱																	
大正	1912~1925	阪は無数	坂はなし。																	

上記の表は、今まで僕たちの調べた阪・坂である。字の横の○の中の数字は年を示している。しかし、享保の坂⑱と、安永の坂⑱と、安政の阪⑱は、何年なのか、調べたのかわからなかった。

IV 結論

上の表から、僕たちの調べた坂で1番古いものは、寛文4年のものです。それから、天明3年に阪の字が、現われ始めている。文政年間には阪がないが、それ以後は阪の字の方が多く使われている。明治になると阪が圧倒的に多いが、やはり坂字も使われている。大正に入るともう坂字は見当たらなくなっている。

以上のことを大阪の歴史と関連づけて、なぜ坂から阪に変わったのか解き明かそう。

まず大阪という地名の語源を述べる。大阪の名の起こりは、今の大阪城本丸付近を大阪と言ったのに始まるという。明応7年11月21日の蓮如上人の消息文に「抑当国摂州東成郡生玉之庄内大坂ト、イフ在所は……」とあるのが、歴史上初めて現われる大阪である。

さて、なぜ大阪から大阪に変わったのか？についてだが、文化5年に編集された書物「摂陽落穂集」に、「或る人いはく大坂と書に坂字を用ゆる事心得あるべし、坂字は土偏に反ると書く、土にかへると有ゆへ忌きらい『偏にかくべき』と書いてある。縁起をかついで字を変えるというのである。そうだとすると、過去に大阪の人々を不安に陥れるような事実はあるはずである。そこで、阪の字が使われている年の事件を調べてみる。

- 天明3年 大阪市中に打ちこわしがあった。
- 享和2年 淀川堤防各所で決壊し、河内149ヶ村が浸水した。
- 文化2年 河泉村々が、菜種、綿実、油小売手広売買を訴えた。
- 天保7年 大阪市中打ちこわし。
- 同 8年 大塩平八郎の乱、摂津能勢で山田屋大助の乱。
- 元治元年 大阪町奉行は、大阪の長州屋敷を破壊した。
- 慶応3年 ‘ええじゃないか’ おどり流行。大阪開市。

以上のように阪の字があった年には、打ちこわし・大乱・自然災害など、幕末の動揺期でもいろいろなことがあった年である。このような時、大阪の人々が、不安に感じ、縁起をかついで、坂から阪に変えて用いたのではなかろうかと考えるのである。また、このころは、文化・文政時代から開国それから長州征伐と幕府の動揺が激しくなってきた時期でもある。

これが僕たちの結論であるが、うまく歴史事実と阪が一致している。

V 総括

大阪人という雑誌の昭和50年4月号の伊吹順隆氏の研究「大坂と大阪について」では、阪字の1番古いものは寛政2年であるのだが、僕たちの今年の研究では、さらにそれよりも古い阪を発見したことになる。

疑問、問題点としては、夏休みの期間では、たくさんの燈ろうを調べるのが難しく、大阪の地名のある燈ろうは少ない。もう少し多く調べたいと思う。地域による阪字の用いられ方、どういふ商人が使っていたか、など調べたいことは多くある。これからもう少しづつ暇を見つけて、コツコツやっていきたいと思う。文献など調べるのも重要である。

感想……僕達の自由研究は、いろいろな神社などを歩きまわり、そこにある燈ろうを調べるというやり方で、この方法のために相当な時間を費やし、夏の暑いときによく努力したものだとながら感心している。住吉大社などでは、そこの警備員の人に「大阪人」にある伊吹順隆氏の研究があることを教えてもらったりで、思わぬところで研究が進んだ。西田先生には、いろいろ今度の研究でお世話になり、我々だけではこのように研究はできなかったに違いなく、感謝している。

(参考文献) 伊吹順隆「大坂と大阪について」大阪人 昭和50年4、5、6月号
藤本篤著「大阪府の歴史」 山川出版